

令和３年度第３回静岡県スポーツ推進審議会 議事録

期日：令和４年３月１４日（月）

時間：午後３時から

会場：県庁別館９階特別第一会議室

事務局：	<p>ただいまから令和３年度第３回静岡県スポーツ推進審議会を開催いたします。</p> <p>委員の皆様には、年度末のお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本日、委員１９名のうち１４名本来なら出席予定でしたが、本日、吉田委員、秋本委員、武田委員、３名から欠席されるという旨の御連絡がありました。このため、リモート参加の方を含めまして過半数を上回る１１名の委員の皆さんは御出席いただくことになりました。条例に規定する定足員を満たしておりますので、この会議が成立していることを御報告いたします。</p> <p>それと、なお発言に際してはお手元にございます卓上マイク、こちらボタンを押してから御発言いただけるようお願いいたします。</p> <p>開会に当たりまして、静岡県スポーツ担当部長の広岡から御挨拶申し上げます。</p> <p>それでは、よろしくお願いします。</p>
広岡スポーツ担当部長：	<p>広岡でございます。よろしくお願いします。</p> <p>日頃、本県のスポーツ施策に対しまして多大な御理解と御協力いただきまして本当にありがとうございます。</p> <p>今回、第３回目の審議会でございますけれども、審議会委員のメンバーの変更がございましたので、先にちょっと御報告させていただきます。</p> <p>これまで委員でございました高村前裾野市長の御退任に伴いまして、県市長会からの御推薦を受け、後任の裾野市長でございます村田悠様に新たに御就任いただくこととなりました。本日は御公務により欠席されておりますが、豊富な御見識等によりお力添えをいただきたいと思いますと思っております。よろしくお願いいたしますと思います。</p> <p>さて、昨日まで開催されておりました中国の北京冬季オリンピック・パラリンピック、東京オリ・パラ大会に続きまして日本勢の活躍で大変日本中が元気をいただいたところでございまして、改めてスポーツの力を実感しているところであります。</p> <p>こうした機会を逃さず、スポーツの聖地づくり、これを進めるため、スポーツを切り口といたしました地域振興を図る上で、今年の１月になりますけれども、スポーツコミッション推進本部というものを設置いた</p>

	<p>しまして、スポーツコミッションの機能をしっかりつくり上げていこうという、そんな準備を始めたところでございます。委員の皆様には、引き続き御指導、御理解のほうよろしくをお願いしたいと思っております。</p> <p>本日は、当審議会にお諮りした次期静岡県スポーツ推進計画の策定に関わる最終審議ということで、前回審議いただきました計画案をベースとして、その後、パブリックコメントでありますとか、県議会での審議等を踏まえました計画案につきまして、最終的な御答申に関わる御議論をいただきたいと思っております。ぜひ忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
事務局：	<p>早速ですが、審議に入らせていただきたいと思います。</p> <p>では、ここからの進行につきまして、富田会長をお願いいたしたいと思います。</p> <p>それでは、お願いします。</p>
富田会長：	<p>それでは、次第に従いまして議事を進めてまいりたいと思っております。皆様の御協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、今お話もありましたが、本年度最後の審議会ということになりますので、第1回審議会で諮問のあった静岡県スポーツ推進計画の見直しについて、審議会としての結論をまとめてまいりたいと思っております。</p> <p>前回の審議会では、部会意見を踏まえた計画素案を全体審議いたしました。それ以降の対応状況について、まずは事務局のほうから御説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
高倉スポーツ局長：	<p>それでは、私、スポーツ・文化観光部スポーツ局長の高倉でございますが、説明のほうをさせていただきます。</p> <p>それでは、お手元の資料なんですけれども、右肩に資料1と書いた1ページの資料、こちらを御覧いただきたいと思います。</p> <p>これまでの本スポーツ審議会の開催状況をまとめてあるんでございますけれども、内容等につきましては、前回、12月1日の第2回審議会以降の対応状況について、続く2ページ以降の資料に基づきまして御説明したいと思います。</p> <p>では、2ページのほうを御覧ください。</p> <p>1の県議会審議の状況でございます。県の中期的な施策方針を立てる場合には県議会で審議することになっておりますが、県議会12月定例会と、それから先日行われました2月定例会、それぞれ12月14日と3月8日から9日、この文化観光委員会のほうにお諮りをしたところでございます。</p> <p>12月定例会におきましては、計画概要を説明し、計画案を配付し、御審議をいただきました。(3)の記載がございますように、議員から計画の方向性や内容についての別段異議等はございませんでしたが、次期スポ</p>

ーツ推進計画につきまして、従前の計画からどのように転換を図るのかというような御質問をいただき、大規模国際スポーツ大会の終了を踏まえまして、日常的にスポーツを身近に感じられる環境をつくることでスポーツの聖地づくりを進めていきたいという旨の回答をいたしたところでございます。

下段には、記載にありますとおり、先般行われました2月定例会の文化観光委員会におきまして、パブリックコメント後の計画案を御審議いただきました。委員会の中では、3件の御質問をいただき、表の右欄のほうに回答を記載いたしました。こちらにつきましても特に計画内容について異論等はございませんで、御理解をいただいたというところでございます。

続きまして、3ページのほうを御覧ください。

2のパブリックコメントについてであります。

こちらは、県情報公開条例に基づきまして、政策形成過程情報の公開として定められた県民意見提出手続になります。昨年12月27日から本年1月20日までパブリックコメントを実施いたしまして、表にありますように2件の御意見をいただいたところでございます。対応といたしまして、それぞれ御意見の趣旨を踏まえまして、計画を修正することといたしました。

それから、そのページの最後、3の教育委員会からの意見でございます。スポーツ推進計画を定め、またこれを変更しようとする場合には、スポーツ基本法第10条第2項に、あらかじめ当該地方教育委員会の意見を聴かなければならないというような規定がありますことから、教育委員会に意見照会したものでございます。

令和4年2月9日に、教育委員会の定例会に私以下スポーツ局の職員等が出席しまして、計画概要と計画案を配付し、説明した上で、2月16日までの期間内に意見をいただきたい旨のお願いをいたしました。当日の委員会の中では、国体における全体の種目数について御質問いただきまして、約410種目であるところの回答をいたしました。特段修正意見等の提出はございませんでした。いずれにいたしましても、教育委員会の施策との相違や目指す方向についての反対意見はなく、おおむねの御了解はいただいたところでございます。

続きまして、次、4ページの資料3のほうを御覧ください。

ここでは、部会への意見照会により見直した指標、目標について御説明したいと思います。

まず1の成人の週1回以上のスポーツ実施率ですけれども、現計画から目標値を毎年度65%として引き継ごうというふうに考えておりましたが、実は国の第3期スポーツ基本計画におきまして70%を目標とすることが示されましたので、その見直し内容の欄に記載しておりますけれども、国の目標値と合わせるといたしまして、70%とすることをスポーツによる健康づくりの推進部会の皆様にもお諮りしまして御了承を

	<p>いただいたところでございます。</p> <p>続きまして、次の５ページのほうを御覧ください。</p> <p>２のスポーツボランティア登録数についてでございます。登録希望者の調査が完了しまして、現時点で353人と判明しましたことから、さきのラグビーワールドカップ2019におきます１日当たりの最大ボランティア動員数が約600人ということでしたので、この数値を目標と設定することにつきまして、地域特性を活かした地域と経済の活性化部会の皆様にお諮りしまして、資料にありますとおり様々な御意見もいただきましたが、方向性としたしましては御了承をいただいたところでございます。</p> <p>それから、若干資料が飛びますが、８ページ、Ａ３型のカラー刷りの資料があります。右肩に資料４と書いてあります。</p> <p>県の次期スポーツ推進計画におけるスポーツの聖地づくりを目指した施策体系につきまして、俯瞰的にお示ししている資料でございます。</p> <p>その中で、内容については資料３でも説明したところですが、表の中の中央の上段のところ、ピンク色の基本方針１、スポーツによる健康づくりの推進の指標が、先ほど申し上げたとおり、成人の週１回以上のスポーツ実施率につきましては目標値を70%に修正をしてございます。</p> <p>それから、さらに下方、基本方針３、地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化の右側ですね、交流を促進するための体制整備の目標ですけれども、スポーツボランティア登録数でございますが、目標値を600人に修正してございます。</p> <p>それから最後に、若干また資料のほうが飛ぶんですけれども、お手元の資料の24ページを御覧いただきたいと思います。</p> <p>直近の情報なんですけれども、スポーツの実施率につきましては、去る２月25日にスポーツ庁のほうで2021年度のスポーツ実施率ほかの調査結果を公表いたしまして、全国のスポーツ実施率の速報値が56.4%ということになりましたので、本会議のほうで御報告したいと思います。</p> <p>それでは、すみません、以上、簡単ではございますが、各方面からの御意見への対応などを報告させていただきました。委員の皆様には、御審議のほどよろしく願いを申し上げます。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局から、計画に対する各方面からの御意見への対応状況と修正した指標、目標について御説明をいただきました。</p> <p>目標値につきましては、関係の部会員に照会をかけて、変更について了承を得たとのことですが、今回、全体会として皆さんに審議をいただいた上で、最終的な計画案に対する審議会の意見をまとめてまいりたいというふうに思っております。</p> <p>意見や御質問などがありましたらお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>ウェブ参加の皆さんからも何か御意見ありましたら、ぜひ御発言をお</p>

願います。

いかがでしょうか。

スポーツの実施率70%、スポーツボランティアの数600というのは、現状からするとかなり厳しい数字にはなるんですが、目標ですから、ここを目標ととにかく数値を上げていくというか、スポーツの振興のために現場の数を積み上げていかなきゃいけないので、かなりちょっと大胆な政策といいますか、必要なのかなというふうには思うんですけど、国の方針に従った形で数字を合わせたということで、今言ったように国の実施率も56%ですから、かなりちょっと離れているので、なかなか厳しい数字だとは思いますが、その辺の数字で御了解をいただけますでしょうか。

あるいは、具体的に例えばこういう方向も必要だねみたいなものも含めて、何か御意見ございましたら頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

スポーツボランティアということになりますと、オリンピック、そしてまたラグビーのワールドカップがあって、大きなイベントが過ぎておりますので、大きなイベントのときにはやはりボランティアがたくさん集まっていたけるといこともありますが、今後のやっぱり、あれほど大きなスポーツイベントというのはなかなか、一生に一度あるかないかの話なので、あの規模というのは到底無理でしょうけど、今後様々なスポーツ施設で、特にエコパのほうではラグビーの聖地化というものも進んでいて、つい先日も全日本の女子でしたか、合宿をしていたなんていうのもありますし、そういったようなところで大会を誘致する、そのときにまたボランティアを募集してということをやっていくしか、地道にそういう活動が続けていくのがやっぱり一番なのかな、そういうことをやっていくしかないのかなというふうに思いますので、そういう市民の気持ち、県民の気持ちを切らさないようにスポーツに関わるという姿勢を維持できたらいいなというふうに思っているところですが、そういったような例えば大会を増やしてほしいとかというものも含めて、何か御要望なり御意見などがありましたら頂戴をいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

委員の皆さんはそれぞれの立場で、例えばレクリエーションであったり、あるいは山本さんはサッカーであったり、いろんな競技団体が活動の母体をお持ちなんですけど、その中で例えばこういう今例えば大会、あるいは計画があって、例えばボランティアであったり、あるいはスポーツ、一般県民、一般市民に対するこういう働きかけをしていくよなどというような、お立場の中から何か動きがあるようでしたら、あるいはこれからの計画があるようでしたら、そんなようなところも御披露いただいてもよろしいかと思うんですが、いかがでしょうか。何かありましたらぜひ。

よろしいですか。願います。

<p>青 野 委 員：</p>	<p>島田市レクリエーション協会の青野です。よろしくお願いいたします。 スポーツ実施率の推移の中で、令和２年には非常に上がって61.8%、最後の25ページの資料なんですけれども、61.8%と上がってきております。それで令和３年ですと落ちてきているというのは、令和２年から３年にかけてコロナの状況がありまして、かなり私たち、私ミニトランポウォーク協会のほうでトランポウォークもやっておるんですけれども、計画の中で数多くの人たちに体験してもらおうということになると、会場がすごく取れなかったんですね。この令和２年のときと令和３年の参加率というか、スポーツの、これが下がったというところは、やっぱりコロナで施設が使えなかった、あるいは大会ができなかったということも影響しているのかなというところですね。 ただ、令和２年のときに少し参加率が上がっていて、私たちのトランポウォーク協会でも取組の中で、結局人を集めてできない、それから施設が開放されていなくて使えないという状況がありまして、ユーチューブ配信とか動画配信というところをやっぱり取り入れていかなくちゃいけないのかなというところで対応したんですね。 昨年的一般の人たちのお話を聞きますと、どういうところで運動しているの、大会的なものは一切できませんでした。それから、体操教室とか、健康教室とか、スポーツ教室なんかも結局施設が使えなくてできなかった。そして、高齢者にしても、会場が使えないという状況で、参加というか体験できる機会が非常に少なかったんですね。 その中で、皆さんでも何かやりましたかということをお聞きしたら、やっぱり健康志向というか、動かなきゃいけないよねと、こんなに自粛生活していると、体がなまっちゃうし、体力ってやっぱり落ちるよねという意見をすごくいただいて、その中でも動かなきゃという気持ちで、結局今ユーチューブとかそういった配信で、自分の家で、個人で、そしてやると。自宅で、個人でやる、それがスポーツの参加率というのと影響している、その辺の兼ね合いというのはどうなのかなと思っているんですけれども、ここの下がってきている条件ですね。令和２年にもコロナがありました。でも、上がっていて、令和３年になったら下がっているという、ここの現状はどう、皆さん、現場ではどうでしょうか。</p>
<p>富 田 会 長：</p>	<p>はい。</p>
<p>岩 水 委 員：</p>	<p>私もそのように思いました。ふだん高齢者に体操教室をやっていたら、やはりその必要性というものを感じて、やっぱり毎日運動しなくちゃいけないよねということをつくづく感じたという声をたくさん聞きました。ふだんやっている教室というんですか、そういうのがいかにありがたかったかということを感じたという声を聞きました。</p>

	<p>それから、ちょっと話が違ってごめんなさい、資料8の24ページに、ちょっと残念だなと思ったのは、「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりはない」という意見があるのは、本当にこれは残念だなと思いました。やっぱり病気とか何かしたりしてみると、いかにそういうようなスポーツとか健康づくりに運動が必要かということをつくづく感じておりましたね。だから、「今後もするつもりはない」ということ、まだ必要性を感じていないという方だなと思います。</p> <p>やはりどこかで健康づくりの、家庭のちょっとした時間でも、忙しい主婦、時間がないとかという方が細切れの時間に運動のできる、どんなことがいいかというようなことを得るチャンスですね、機会も欲しいんじゃないかな。自分で1人で何をやっていいか分からないという方もいるものですから、運動するチャンスのない人には、こんなことを1人でも、ちょっとした細切れの時間でも、こんなことで健康づくりの運動にできますよというようなことを知る機会ということも必要だと思います。何かまとまらなくて申し訳ありません。そんなことを感じました。</p>
高松スポーツ振興課長：	<p>それでは、事務局から申し上げます。スポーツ振興課です。</p> <p>まず最初に、青野委員がおっしゃられました、同じコロナ禍なんですけれども、令和2年は元年に比べて大分上がっていると、それでまた少し数ポイント、現状では速報値で落ちているということがございますが、これはスポーツ庁が調べた内容でございますけれども、そこで見てみますと、まずコロナで仕事の勤務の形態が少し変わったというのがございます。</p> <p>と申し上げますのは、リモート勤務という形になって、要は自宅で仕事をする時間が増えた。そういう中で、健康に気を使って、そういった、会社まで行く時間が必要ないものですから、ちょっと自宅にいる時間が長くなったということで、少し運動もする時間ができたというのが分析の一つとされております。</p> <p>今回、2年から3年に比べて少し数ポイント落ちているというのは、ちょっとすみません、詳しいものがまだちょっとこちらでも確認できておりませんが、やっぱり今お二人の委員がおっしゃったように、こういったコロナの自粛生活の中で、やはりいろんな精神的にも肉体的にも非常に健康、閉塞的な中でやはり何とかしなきゃならないと、健康にならなきゃならないという、そんな意識が皆さんの中で働いているのかなと、そんな感じがいたします。以上でございます。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほかいかがでしょうか、お気づきの点など。関連したところでも結構でございます。</p> <p>お願いします。</p>

岩 水 委 員：	<p>菊川市の体育協会の岩水と申します。先ほどすみません、名のらなくて。</p> <p>恥ずかしい話ですけれども、ボランティアですね、菊川市の体育協会でも、シティマラソンといいまして、菊川のマラソン大会を毎年やっておりました。今、コロナでやっておりません。</p> <p>その中で、ボランティアを募りまして、ボランティアの人たちがすごくまとまってくださって、最初の頃はすごくよかったんですね。そして、ボランティアの人たち自らがグループをつくって、会をつくって、ユニホームまでつくって頑張ってくれたんですね。</p> <p>それが数年たつうちに、本当にどうしたわけか、私たちもちょっとやり方が悪かったのかもしれませんが、ボランティアの方たちが、この仕事は嫌だ、あれは嫌だというようなことをそれぞれ言い出しまして、結局何かうやむやになって、その会もなくなってしまったというような、ちょっと恥ずかしい状態なんですけれども、そこら辺、袋井で行われましたワールドカップのラグビーなんかでも、喜んでボランティアに参加した方もいましたけれども、そういうときの割り振りですか、仕事の、というものは、それぞれの仕事をこういうのをやりたいとかという希望を聞いて、たくさんの方が参加されて、喜んでやってくださったんでしょうか、教えていただきたいと思います。すみません、ちょっと離れているかもしれませんが。</p>
富 田 会 長：	何か。
大石スポーツ政策課長：	<p>すみません、スポーツ政策課です。</p> <p>ボランティアに関しましては、特に今回のオリンピック・パラリンピック、それからラグビーワールドカップ、それぞれやはりボランティアを専門的に扱ってくれるような、いわゆる組織委員会とかのやっぱりコーディネーターがいて、それで割り振りをしたというのが事実です。競技に携わるほうは特にそうですけれども、やっぱり専門的な人はそちらに振り向けるとか、そういうものはちゃんとやっているというふうに聞いてございます。</p> <p>今回、静岡県ボランティアとしては、オリンピック・パラリンピックに関しては都市ボランティアという形で、いわゆる会場以外の周りで、今回あまりできなかったんですけれども、観客を誘導するとか、状況を説明するとか、そういう形でやっておりますので、今後、そういった人たちの連絡先というものは私どもも持っているものですから、いろんなスポーツイベントのときに、こういうボランティアを募集するとか、そういうものが各団体から希望があった場合には、直接はメールアドレスを教えられないんですけれども、その方々に応募フォームを送るとか、そういった形でいろんなスポーツに携わってもらいたいなというふうに考えてございます。</p>

	<p>実際に、今回このチラシにもございますけれども、3月19、20日で富士市のほうで、富士山サイクルロードレースということでクリテリウムの大会を町なかでやります。これには今回のボランティアのリストもちよっと活用させていただいて、やりませんかというのをやっております。</p> <p>また、ボランティアに関しては、同じような状況では、やはり富士山女子駅伝にもかなりのボランティアの方々がそれぞれ登録されていると。あそこはもう10年以上やっていて、かなり皆さん活発に御協力いただいているもんですから、そういった事例等もいろいろ参考にしながら、皆さんにもお分けしていくというのがよいのかなというふうに感じてございます。以上であります。</p>
岩 水 委 員：	ありがとうございました。
富 田 会 長：	<p>そのほかお気づきの点などありましたら御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
杉山（康）委員：	ちょっと最初のほう、説明を、聞こえなかったもので、これ、意見というのは、資料5とか資料4とかを全体を含めての意見でいいんですか。
富 田 会 長：	それで大丈夫です。
杉山（康）委員：	<p>1つ気になっているのは、16ページの、これは案のほうですね、16ページと、あと資料4のスポーツの聖地づくりという、このポンチ絵というのかな、この絵の意味がちょっと捉えにくくなってしまっていて、もう少し何か、ここに掲げる目標で全て聖地づくりが完了するわけではないので、それこそインフラ整備ですとか、多様性を大切にしながら、インクルージョンという意味では共生社会、それからスポーツツーリズムという意味では宿泊関係の整備とか、あるいは自然環境の問題もスポーツは非常に大きく関わってきます。あるいは、静岡だと、ものづくりという意味では非常に大きな企業さんがいらっしゃいますので、そういったところとの連携を図りながら、今回は少なくともこの18ページにある聖地づくりの幾つかの目標を掲げて進めていくけれども、25年度で聖地づくりは完了するわけではなく、さらにその先に静岡県は聖地をつくっていくんだという絵じゃないと、その先も見据えた計画性みたいなものが何かどこかにあるといいかなというふうに思うんです。</p> <p>そうすると、いろんな意見がさらにまた、今回出てきたものを柱にしながら、それを発展させるために、じゃあ枝葉をどういうふうにするかというアクションプランができるんじゃないかなというふうに思います。以上です。</p>

富田会長：	ありがとうございました。 これについてはありますか。
大石スポーツ政策課長：	<p>スポーツ政策課ですけれども、今おっしゃるように、いろいろな計画等も書いてありますけれども、あくまでも2025年度というのは推進計画、今回の計画の目標年ということですので、逆に言いますと、8ページにあるような基本理念やその下に載っているスポーツの聖地づくりって2025年で終わるわけではありません。これ自身は、こういった方向性でずうっと進んでいくと。</p> <p>さらに、時代の変化等により、また新たにニーズ等も生まれてきますので、そういうものをまた次の計画で見直しをして高めていくというように考えてございますので、決してこの、たまたまこの、ある程度区間を区切らないと目標値ってなかなか決めるににくいものですから、何年に一遍というのを見直しの機会というふうに考えていただければと思います。</p> <p>あくまでもスポーツの聖地づくりとして、やはり「する」「みる」「支える」など、皆さんが日常生活でスポーツを感じることを、それからスポーツに携わる人たちが経済的にも困らずにいろいろ続けていること、さらにその中でトップアスリートたちがいわゆる、今回のオリンピック・パラリンピックでもありましたけれども、夢を与えてくれると、スポーツ全体をこういった形で進めていく過程の中の切り取った部分が25年度というふうに理解していただければと思います。あくまでも目標というものは、今のところは変わってはいないというところでございます。以上であります。</p>
富田会長：	ありがとうございました。 よろしいでしょうか。
杉山（康）委員：	<p>そうしますと、何か、絵にこだわってあれなんですけど、この真ん中に聖地づくりというのがあるのは、じゃあこれは誰がやるんだみたいな絵で、これを全部合わせると聖地づくりになるということですよ。</p> <p>だから、ちょっと絵がね、前あったのがゴールしているみたいな絵だったんだけど、むしろそっちのほうが何か合うような感じになってしまっていて、でもあれだと何か競技スポーツだけをしているような気もするので、もうちょっと何か工夫があってもいいのかなというふうには思います。</p>
大石スポーツ政策課長：	恐らく前回の計画のほうで、三角形をしてあって、上にトップアスリートがいて、全体を広げていくというような形で前回の計画のほうにはつくってございます。

	<p>ただ、それは非常にゴールが、だんだん広いところから取捨選択されて最後積み上がってきたらゴールのように感じますけれども、やっぱりスポーツって、日常で皆さんがスポーツを肌で感じられる文化づくりというか、そういうものを目指していくと、やっぱり三角形の頂点よりも全体で育んでいくような真ん中にスポーツの聖地というものの、逆に言うと、これを立体的に見ていただくと、それぞれ基本方針1、基本方針2、基本方針3という裾野があって、その上の頂点としてスポーツの聖地というのがあるというふうに、今まで三角形を横から、富士山を横から見ていたのを上から見ていただいたようなイメージで見ていただければよいのかなと思います。以上であります。</p>
杉山（康）委員：	<p>そういうふうに見たいんですけど、このままだとなかなか見られない、何か見られるようにしてほしいですね。</p>
富田会長：	<p>スポーツのまず聖地づくり、スポーツの聖地って何だろうかということからこの計画をつくるときにも入って、実際このスポーツ推進計画の16ページのところには、スポーツの聖地づくり、スポーツの聖地って何だろうかということがまずこの絵の前に掲げられているので、これを目指しましょう、その中には3つの柱を立ててやっていきたいと思いますところを、分かりやすいか分かりにくいかわかりませんが、1つ簡単にざっくり図にすると、そういうこの16ページの図になるのかなというところでございますので、杉山委員のおっしゃることもよく分かるんですけど、この絵とその前後にあるこの文章を読み込んでいただければ、絵からぴんとこないというのでも分からないでもないんですが、前後の文章を踏まえて、この基本理念、目標に掲げていくということで御理解をいただければなというふうに思うんですけどね。</p>
杉山（康）委員：	<p>もう、だから変えないでこれでいくということでもいいですね。別に、何か工夫ができるんだったらしたほうがいいと思っただけで。このままですごくということですね。</p>
富田会長：	<p>例えば杉山委員のほうでいくと、例えばこういう絵の作り込みだと非常にぴんと自分はくるんだけどなというのは何かありますか。</p>
杉山（康）委員：	<p>それは難しいですね。少なくとも口では言えないです。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。 今、杉山委員のほうからも今ちょっと絵に関しては御指摘をいただきましたが、前後の文章を読み込んでいただければ、概念図として、こういう3つの柱で聖地づくりを進めていくというところは御理解いただけるかなというふうには、僕は理解をしています。</p>

	<p>これに関連して何か御意見ありましたら、ぜひいただければと思います すが、いかがですか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>そのほか何かまたお気づきの点などありましたら。</p> <p>お願いします。</p>
山 本 委 員：	<p>サッカー協会、山本ですけど、まずスポーツの実施率に関してなんですけど、目標は別に70%でも80%でも、政府の目標に沿うこともないと思いますし、やっぱり何かを始めれば、先ほど事務局のお話にあったように、自然と始めたことによって、完璧にはできなくても、人材が育っていくということは起きますよね、成功するか成功しないかは分かりませんけど。</p> <p>大学の女子駅伝も続いてきたからすごくにぎやかになってきて、毎年あそこに来るのを楽しみにするような人が来て、観光にも役には立っていると思いますし、富士山を背に走るなんていうのは特色があって、静岡ならではでいいんじゃないかなと思っていつも見ているんですけど。</p> <p>その70%を目標にするのはすばらしいことで、20代から40代の女性のことがここに書いてあるので、育児のこととかで、こういう方々をどうやって助けていくのかということが具体策として非常に重要になってくると思うので、例えば保育所があるところで運動ができるとか、サッカーのスタジアムの中に保育所があってお母さんがフットサルができるとか、何かそんなことがあればやりやすいのかなという環境をどうつくってやるかということも大事なのかなというふうに思います。</p> <p>2つ目のボランティアの件なんですけど、600人が会長が結構厳しい数値だとおっしゃったので、僕は厳しい数値こそ価値があると思っているので、そこにみんなでどうやってやろうかということ、できないことを数えるよりも、やるために何をやるかということ、みんなで一生懸命考えて、成功するかどうかは時間との戦いになるかもしれませんが、やってみるのはいいことなんじゃないかなと思います。</p> <p>我々サッカーの話をすると、子供たちにサッカーをさせようと思ったら、ボランティアの確保が絶対必要で、そもそもがレフェリーがいなければサッカーはできなくて、ピッチがなければサッカーはできなくて、そういう意味では研修は非常に重要になるのかな。ボランティアの研修もそうなんですけど、レフェリーを育てる研修もやらなきゃいけないし、指導者を育てるための研修もしっかりやっていますし、あとサッカー協会というキッズ、普及というところもすごく、4歳、5歳でもサッカーはできるので、普及の委員会で普及のための指導者の養成も積極的に行っています。それらを教える方がインストラクターの資格を持っている人しかできないような仕組みになっていまして、そういう方を一生懸命育てているというのはサッカー協会がやっていることですので、その指導者の養成、レフェリーの養成と同じように、ボランティアの養</p>

	<p>成みたいなことも巻き込んでやっていく仕組みがあれば。</p> <p>この小さなサポートがボランティアとしてすごく助かっていますというのはたくさんやられている方がいると思うので、それをどう明確化していくのか、見える化していくのかみたいなのができれば、実際にそれボランティアになっているんだけどということは我々のプロの世界にも、ボランティアで入場の整理をしてくれたりというようなことは実際に行われていますので、そんなことが広がっていけばいいのかなというのは。</p> <p>僕は、静岡はかなり、プロサッカーチームでいうと4チームあるので、沼津から清水、藤枝、磐田と各地域満遍なくあるので、そういう本物を、ここの目標の中に書いてある「する」「みる」「支える」というところでいうと、これが完結できるような環境はあると思うので、そういうのを磨いていけばいいのかなというふうには思っ、この2つの今のお話を聞いておりました。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>おっしゃるとおり、サッカーだけではなく、ラグビーやバスケットボールやいろんなスポーツが拠点となっている地域がありますので、おっしゃるとおりだと思います。ありがとうございました。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。お気づきの……。</p> <p>星野さん、どうぞ。お願いします。</p>
星野委員：	リモートで失礼します。声は大丈夫でしょうか。すみません。
富田会長：	はい。
星野委員：	<p>3点お願いします。</p> <p>1点目が、まずボランティアに関してですけれども、ラグビーのワールドカップのボランティア、私も横目で見て、ああこれはちょっと私がイメージしたボランティアと違うなと思いました。それは、ワールドカップの組織委員会が、東京であるんですけれども、そこがボランティアに関して非常に事前の研修が多くありました。そこは、どちらかというとマインドセットの研修が多くて、ボランティアをワンチームにしてみたいな、そういうワークショップをどうもたくさんやっているイメージがありました。なので、ワンチームなので、たとえ自分が希望していない場所に配属されたりしても、マインドセットができていますので当然文句を言わないというようなこともちょっとあるのかなと思いました。</p> <p>ちなみに、それを仕切っていた佐藤洋平という人間は、今ラグビーの静岡ブルーレヴズの専属スタッフとして採用されています。なので、静岡ブルーレヴズは早速ボランティアのそういったワンチームになる活動をしておりますので、ぜひ彼からそういった知見をいろいろ参考にとい</p>

うのはすごくあるんじゃないかなと思いました。私も何かボランティアというと、いかにもやってもらってありがたいなという感じだったんですけど、そうではなくて、お金をもらうもらわない以外はプロとしてというマインドセットをすごく上手にやられたなと思いました。

2つ目は、聖地化に関しては、今ラグビーのお話をしていただきましてありがとうございます。女子の日本代表もそうですけど、エコパで高校日本代表が、3月に海外へ遠征に行くのが行けなかったのが、代替地としてエコパでキャンプをやってくれました。最終日に、紅白戦という、エキシビジョンマッチという形でJ SPORTSとかでも生中継したりとか、その中にハーフタイムにはエコパとか、あと民間のホテル、ビジネスホテルですね、のプロモーションも兼ねた映像を流してもらったりとか、そういった展開をやりました。

エコパに関しては、ほかにも格闘技のRIZINのイベントがあったりとか、静岡ダービーがあったりとか、実はすごいことをいっぱいやっているわけですね。そういったところをそれぞれが頑張っていることで、まずは人に興味を持っていただく、県内、県外ですね。それで、問合せが来ると。そうすると、足りないところだらけになり、そこでまた官民それぞれに知恵を出し合う、協会にですね、というサイクルで今やっています。なので、完璧になっているから誘致ですではなくて、走りながら考えてやっていると。その中で、補助金だけではなくて、スポンサーなのか、日本協会のほうのお金なのかとか、他競技とコラボしてとか、そんなことを知恵を絞りながらやっています。

ちなみに、静岡のラグビー協会、一般社団法人化して、理事は静岡在住の人が半分弱です。結局、回す人間は静岡でいいんですけど、経営者とか、そういうセンスを持っている人、人脈を持っている人というのは県外関係なく、リモートの時代ですので、そういった人材登用もしております。

あと、3月27日にはエスパルスの本拠地、日本平スタジアム、これは県営ではないですけども、こちらでヤマハ、静岡ブルーレヴズが初めてラグビー、日本平スタジアムでラグビーをやるのはですね、それがラグビーの利益というよりも話題になると、何か動いていると、じゃあ自転車のこういうのもできないのか、そういうのが私のところにも結構多く殺到しております。それで、ほぼ実現していることが多いんですけども、そういった動きがいっぱいある。

それをやる際に、やはり人間というのはメンタルというかマインドのところで、どうしても自転車とかラグビーばかりみたいなのが言われてしまうと、すごく残るんですね。だから、ここチャレンジしちゃっているのかなみたいなきに人の顔が浮かぶ。これ、はっきり言って学校もそうですけど、その体質自体をもっと私たち変わると、どんどんもっていけるんじゃないかなと。ただ狭い中で分からないことを狭い中の人間で解決しようとしなないということも大切なかなと思いました。

	<p>最後になります。すみません、長くなりました。</p> <p>エコパに行って、すごく感心したんです。私も2日、3日合宿に帯同したんですが、とにかく朝、夕方、昼間もそうです、休日、散歩している人がすごく多かったです。袋井、掛川の人、羨ましいなと思いました。あれだけの敷地があって、自転車も走れて、もう本当に散歩して、犬の散歩もできると、これは羨ましいと。</p> <p>逆に、私が住んでいる清水とか駿河とか、ないんですよ、そういう場所が。昔はコミュニティーとして公園で野球もできたし、サッカーもできた。今できない。やってもヨガとかそういうことをやっているかやっていないか、体操ですね。</p> <p>なので、前回のときにやりました散歩ということですね、これを静岡県オリジナルで、本当に際限なく網羅されているように散歩マップを、例えば町内会、今なかなか機能していない町内会とかと連動したり、あと既にある県営の施設とか、その他の施設も活用しながら、何か分からないけど静岡ってみんな散歩しているよねみたいな、以前でいえば、みんな静岡ってサッカーやっているよねみたいな、そういったのをやっていくというのは、すごく私、ものすごい、今いろいろ枝葉のところで1個ずつ課題を解決しようとしていることが、その根幹でそういう散歩、散歩県みたいなですね、になることによって、少しずつ一気に解決につながるんじゃないかなんていうことを感じました。</p> <p>すみません、3点、少し長くなりましたが、以上になります。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>大変示唆に富んだ御意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
杉山（克）委員：	<p>私も富士市に住んでいまして、女子駅伝のボランティアは、初回から5回か6回ぐらいまではボランティアをやっていました。実はコースが変わった、コースが何回か変わっているうちの変った段階でちょっと自分のうちからコースが離れてしまったので、ボランティアはちょっと今はやっていませんが、基本的には近くでやる、自分でできる範囲だったら参加しようと思ってボランティアをやっていました。</p> <p>実は、女子駅伝は最初は12月23日の天皇誕生日にやっていましたが、数年前から12月30日という大みそかの前の日に変更しました。それは、交通整理がやっぱり23日のときよりも整理しやすいと、管理しやすいという、要はお正月ムードになって、通勤車両もみんななくなって、すごく整理しやすいということで30日になったらしいです。</p> <p>そのために、23日の祭日だったら銀行の方々がみんなボランティアに出ていたんですが、30日になったときに平日で勤務しなきゃならなくなって、一気に銀行の方はボランティアに参加できなくなったというのを</p>

聞いています。

それと同時に、富士山駅伝の場合は防寒着を1枚本当に無償提供していただく、お金はないですけど、無償提供でジャンパーを着る。そうすると、ジャンパーの配付が11月ぐらいに開始するんですよ。ボランティアの人らは、もうそれをみんな防寒着を着て、ふだん生活の場として出ているので、市民の皆さん方、もうそろそろ駅伝が始まるんだなという意識づけになっているといいと思うんです。

という意味では、地域のボランティアを、この登録の600人というのは県全体の話だと思うんですが、やっぱり自分の地域だけでもやりたいという人がいると思いますので、その辺を加味していただくということが必要だし、私ら総合型スポーツクラブの仲間の中で、磐田にいますが、たまたまラグビーワールドカップのボランティアもやっていた方なんですが、この間、2週間前に東京マラソンのボランティアへ行行って、昨日、おとといかな、何か名古屋のほうのテニスの大会のボランティアに行っていた。年間、ボランティアへ行くスケジュールを決めているんですよ。

ということで考えれば、ボランティアを募集する大会とか、募集する、例えば県外でもいいし、県内じゃなきゃ駄目だとか、条件はあると思うんですが、ボランティアの活動ができる発信をしていただくということも必要かなというふうに思います。僕は逆に言うと、行政のほうから、この大会に関してはボランティアが必要だからボランティアを募集したいんですがというお話をやっぱり発信するということが必要かなというふうに思います。

すみません、今のが1点で、スポーツ実施率の件で、今、条件が週に1回というお話があって、去年のやっぱり8月、9月って、緊急事態宣言が発令されたりなんかすると、要は毎週やっていた人も2か月間やらなかったというイメージがつくと、スポーツはやっているけど毎週はやっていなかったということで多分実施率が下がっているんじゃないのかなという気はします。

私も基本的には毎週月曜日は鷹岡小学校のこどもあそび塾がありますよとか、火曜日は吉永ですとか、週に1回ずうっとコンスタントにスケジュールがあるんですが、やっぱり2か月のブランクがあると今年はやっていなかったなとなっちゃイメージがあって、下がっているという気もします。

あと、新たにちょっと私のほうは障害者スポーツの裾野拡大というお話の中で、施策の11ですが、スポーツ実施率の、これは成人の70%は多分進んでいけばやれる、コロナの関係がなくなって実施できるようになれば進んでいくとは思いますが、障害者の実施率はかなり進んでいなくて、要は成人の70%の半分以下になっていると思うので、そこを上げていくということも必要かなというふうに思います。

あと、障害のある方々がスポーツをするに当たって、やっぱり施設が

	<p>整っていない。小学校にしても、中学校にしても、車椅子でも入っていない段差がある、入り口の敷居が高かったり、それだけでもう本当にできない。それと、トイレがやっぱり使いにくくなっているというのがあります。</p> <p>それと、各施設には必ず障害者用の駐車場というのがあります。必ずあります。ところが、屋根のついているところというのはほとんどないです。車椅子の方で、自分で車を運転して会場に来る方が私たちのクラブにもいます。でも、雨が降ると来られないです。そうすると、やっぱり屋根のあるところの施設しか来られなくて、雨が降るとやっぱり休むということがあります。</p> <p>ですから、障害者スポーツの裾野拡大ということも含めて、施設整備ですね、トイレとか、段差解消とか、あと音声にしても何にしても、できるところからやっていきたいと思います。</p> <p>その中で、特別支援学校というのは、もともと障害がある生徒たちが使っている施設なので、特別支援学校をもう少し土曜日、日曜日を開放していただいて、障害者のスポーツの実施率を上げるということが必要じゃないかなというふうに思います。</p> <p>実は、富士特別支援学校に、もう数年前に利用させてくださいというお願いはしました。ところが、職員の方々が、やっぱり土曜日、日曜日に開放するとなると、職員が誰か行かなきゃいけない、鍵を開けなきゃならない、閉めなきゃいけないという、ちょっと首をかしげることと、障害者のスポーツだから、もし教員がついていなければいけないというのであれば、やっぱり開放できませんというような話を聞きました。</p> <p>実際は、私たちはもう職員の方々がついていなくても実施できるというふうに思っていますが、ただやっぱり鍵を開けるために職員の方に来ていただかなきゃならないということであれば、その辺を整備していかなければ、それで学校開放をしていただければ、障害者の運動する、スポーツをやる裾野が広がると思うし、せっかく富士特別支援学校だって体育館だけじゃなくて運動場もありますから、利用できればと思います。</p> <p>それと同時に、この施策の中に、障害のある人もない人も一緒にスポーツに参加する機会を提供するというのは、やっぱり障害者ができるスポーツの環境のところへ一般の人たちが一緒に入ってやる、そういう環境づくりをやらなきゃいけないと思っています。以上です。</p>
富 田 会 長：	ありがとうございました。
高松スポーツ振興課長：	今の杉山委員の御意見の中で、少し補足説明というか、スポーツ振興課からさせていただきますと、まず特別支援学校の開放の件でございますが、何年か前に、もともと健康福祉部がこの障害者スポーツを担当していたんですが、その際に調査をさせていただいた際には、そういった

	<p>土・日・祝日という形でグラウンドなり体育館については使うことができるというふうなことで私ども実は聞いておりまして、当然土・日・祝日は職員の方がいないものですから、前日に例えば鍵を借りに来たりとか、多少そういった煩わしさがひょっとしたらあったのかもしれませんが、一応貸出しはしていただけるという形で、実際にはなかなか使用率は、使い勝手の面なのかもしれませんが、ちょっと低いというところはございます。それが今後もっと使いやすい形になっていけば、私ども教育委員会でも連携してやっていかなきゃいけないことかなと感じております。</p> <p>それともう一つ、やっぱり裾野拡大について、健常者の方と一緒に、例えばボッチャでありますとか、杉山委員のところでもいろいろやっていらっしゃいますが、私ども、ふれあいフェスタという形で県内何か所かでやっているんですけれども、一般市民の方を対象にですね。その中で、そういった障害者スポーツもやっぱり障害のある方と健常者の方が一緒にできるというようなことも、少しずつではございますが取り組んでいくと、そういったところを今後もっと広げていかなきゃならないと感じているところであります。以上でございます。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>そういう意味で、基本方針のところにはSDGsの17の目標、関連する項目も上げていただきながら、持続可能な社会に向けてスポーツができること、スポーツでできることというんですかね、それも意識しながらということで、この施策を立てていただいたりということになっていようかと思います。</p> <p>杉山委員、どうぞ。</p>
杉山（康）委員：	もう一つだけよろしいでしょうか。
富田会長：	どうぞ。
杉山（康）委員：	<p>子供の運動習慣の確立のところですけども、20ページから子供たちが運動するという習慣づくりのために努めるということが書いてあるんですが、運動するということができることというのは、なかなかその手だてというのは非常に難しいのが現状だと思うんです。</p> <p>それで、ここの一番最初の四角の中にでもいいんですけども、運動習慣を身につけることが大切なんですけれども、例えばスポーツを人間関係プログラムに活用するとか、ジュニアスポーツをコミュニティーの場にしながら子供の運動習慣を確立するという一つのステップをつくらないと、なかなか受け入れてもらえないような気がするんです。例えばスポーツが大切だと分かっている人にとっては、スポーツを媒体にすれば、そういうことができるということは分かっていますけれども、ほと</p>

	<p>んどの人がそうは思わなくて、基本的にはやっぱり学力を上げたほうがいいんじゃないかとか、そういったところが常にありますので、お子さんを持っていらっしゃる親御さんに発信していくとか、あるいは学校に向けて発信していく場合にも、そういったところを少し加えながら、運動習慣の確立ということで、こういったメニューを上げていくというふうにさせていただけるとありがたいなというふうに思います。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>20ページのその四角の中の2行目のところ、例えばルールのある遊びなどによって社会性を育てるきっかけ、ここにもう少し今言ったような内容を一言、二言入れてほしいということでよろしいでしょうか。</p>
杉山（康）委員：	はい、お願いします。
富田会長：	<p>御意見承りました。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p> <p>お願いします。</p>
石川委員：	<p>スポーツ協会、石川ですが、先ほど星野委員がおっしゃっていた成人のスポーツの実施率を考えたときに、じゃあどういうアプローチをしたらいいのかというのを考えないといけないと思います。</p> <p>対人競技とかチームゲームは、すぐにやりたいと思ってもなかなか入りづらいですね。ですから、まずは個人でやれますよというのを紹介していく。先ほどウオーキングマップを設けるとか、道路に距離メーターを点在させるとか、行政で工夫をして実施率を高めるような、何かそういう方策を考えていかないと、70とか80でもいいですが目標値に達しないかなと。ただ数字を述べるではなく、こういう形で上げていきますよという方策が欲しいなと感じています。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>もうまさに具体的な施策の今アイデアをいただいたように思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>どうぞ。</p>
山本委員：	<p>すみません、山本ですけど、基本方針の3に、地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化というところでいうと、スポーツができる経済の活性化ってかなり、ラグビーのワールドカップもそうでしたし、サッカーのワールドカップや国体もそうですけど、我々でいうと、日常プロの試合が、4チームあるので、子供たちが身近に毎週見れるんですね、静岡県というのは。ホームとアウェーというのがあるんですけど、4チームあるということは必ず静岡は週末にサッカーのプロの試合</p>

	<p>が見られるという、これは全国トップ、4チームというのは最多なんです。東京も1チームしかないですから、2チームか。</p> <p>そういうような状況というのはあるので、その辺を生かしていくということかというと、例えばワールドカップのメンバーって、この四半世紀で90人しかいないんですよ、ワールドカップの日本代表になった人って。静岡県の学校出身の人が16人、これはもう断トツ、90人のうちの16人は静岡の学校を出ていて、2位は東京の7人ですね。そのくらいサッカー王国と言われるのは、それだけの人数が。ジュビロやエスパルスから育った人も入れれば優に20人を超す人、90人のうちの二十数人が静岡の関係者ということは、やはり子供たちも誇りに思えるし、結局一人一人の心の中に、俺たちのまち、すごいぜというところが、どういうふうに落とし込めるかというところは、そういうことだと思うので。</p> <p>例えばサッカーミュージアムというのが東部のほうにあるんですけども、こういうものを活用して、経済的にも活用できるので、これはスポーツがやることなのか、観光のほうやることなのか、その辺の予算を、スポーツを見に来てもらえることで経済が活性化する、その予算をスポーツの予算だけじゃなくて、観光にも役に立っているわけで、食べたり、飲んだり、電車に乗ったりとか、そういう経済的なこともあるので、その辺を一体として、観光部ってあるんですかね、観光部のほうが逆に言うとその予算をスポーツにサポートしてもらおうとか、そういうような独自のスタイルみたいなのができてくると予算もうまく活用できるのかなというふうに、ここに経済の活性化と書いてあったので、そういうことができる環境が静岡にあると思うので、観光部みたいなものも巻き込んでいけばいいのかなと思った次第です。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>お願いします、事務局のほう。</p>
大石スポーツ政策課長：	<p>スポーツ政策課ですけれども、まさに委員のおっしゃるとおり、観光というのは非常に重要なファクターを占めております。逆に言いますと、今、「みる人」というところは、「支える人」というのもそうなんですけれども、やっぱり見ていただけるということは、いろんなところから来ていただいて消費してもらおうということなので、やはりプロスポーツとか、そういった大きな大会の誘致というのは、非常に重要なところを占めているというふうに考えてございます。</p> <p>また、経済の活性化というところでは、先ほど日本代表の合宿ということもありましたけれども、いろいろな競技団体の合宿が静岡県で行われるようになれば、それに伴いましていろいろなところで宿泊が伸びる。それから、当然、合宿がいっぱい来るということは、スポーツに携わる人、例えばトレーナーとか、そういう人たちの雇用も生まれるというところも付随していますので、観光だけではなくて、そういったスポ</p>

	<p>一ツ人材の、逆に言いますと、大学生とかで、就職先というところでスポーツ関係ってなかなかなくて、プロの選手になるか、教員になるかというところが大概だと思いますけれども、そういった道も開けていくというふうに考えましたので、こういった地域特性を活かしたスポーツによる経済の活性化というものを今回入れさせていただきました。</p> <p>まさに委員のおっしゃるとおり、いろいろな方策を使いまして、スポーツのほうを、「する人」、「みる人」だけじゃなくて、「支える人」という形でも関わって経済を活性化していきたいというふうに考えてございます。以上であります。</p>
富 田 会 長：	<p>ありがとうございます。</p> <p>そのほかいかがでしょうか。</p>
杉山（康）委員：	もう一回いいですか。
富 田 会 長：	どうぞ。
杉山（康）委員：	<p>もう言いませんけど。</p> <p>すみません、やっぱり子供の運動習慣の確立が非常に重要だと思うので、あらゆる子供に対してですよ。将来、聖地にするのであれば、非常に運動能力の高い子も重要だし、運動が苦手な子も下支えしていかなきゃいけないと思っていますので。学校の役割って非常に大きいと思うんですけど、それ以外のスポーツクラブですとか、そういったところの役割も非常に大きい。地域全体がそうでなければいけないと思うんですが。</p> <p>ちょっと資料4のところで、今気がついたんですけど、新体力テストの記録が全国平均を上回る割合が100%というのを目標にこの期間で推進するんだということであれば、幾つか確立するためにいろんな事業をやっていくんですけど、やっぱりトップアスリートの子供たちへの派遣ですとか、あるいは指導者とか教員に向けての研修とか、あるいは小学校へ子供たちに出張授業とか、もうどんどん入れていくような、そういった予算をつくるんだという勢いで何か目標をそこに書いてもらえるとありがたいなと思います。以上です。</p>
富 田 会 長：	<p>ちょっとそこまで具体的な施策をここに入れるかどうかというのはちょっと、杉山先生の気持ちは非常に伝わってまいりましたが、文言に落とすかどうかということに関してはちょっと、事務局のほうで検討してください。</p> <p>いいですか。お願いいたします。</p>
高松スポーツ振興	スポーツ振興課でございます。

課長：	<p>今の杉山委員の御意見に関しまして、現状、今私どもスポーツ振興課で、ドリカムスタート事業という名前で、いわゆるトップアスリートを主に中学校に派遣するようなことをやっております。</p> <p>そういった中で、やっぱりトップアスリートへの憧れとか、それに出席しているお子さんたちの目つきが非常に、やっぱりスポーツに対する気持ちが変わってくるというようなことで、そういったこともやっております。</p> <p>そうしたものをこれからもっと広げていきながら、もう少し、小さなお子さんも含めてですが、お子さんたちの子供の運動習慣の確立、あと本当に小さい子については親子運動遊びという形で、いろんなものが出ておりますが、レクリエーション協会さんと連携いたしまして、そういった小さい幼児の方にもやっているということで、いろんな幅広い活動を今後進めていって、こういった運動習慣の確立に向けて努力していきたいと考えています。以上でございます。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございました。</p> <p>そのほかよろしいでしょうか。</p> <p>もしよろしいようであれば、本日いただいた御意見を踏まえまして、事務局のほうにおいてまた、微修正ということになります。修正案を後日皆様のほうに送付いただいて、確認いただいた上で、本年度の審議会の諮問に対する答申ということにさせていただきたいと思いますが、おおむねこの方向でということで御了解をいただけますでしょうか。</p> <p>(挙手する者なし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、また修正案、お目通しをいただきまして、御意見をいただければというふうに思います。</p>
石川委員：	<p>すみません、この案の13ページ、今お話のあった、学校の体育の授業以外で、運動やスポーツを、合計で1日おおよそどのくらいの時間を費やしているかという数字ですよね。小学生は全国平均を下回って、中学は全国平均を上回っていますよね、見事に。ということは、やはり小学校に何らかの策をしないと、体力の向上は難しいかなと思うわけです。</p> <p>1つは、ボール投げが全国平均一番最下位だったので、県下40校のボール投げ強化をスポーツ協会が県から委託を受けて指導者を小学校に派遣しています。効果は大です。できれば小学校に体育専任の教諭がいて、その学校の運動能力、子供たちの能力を高める方策を恒常的に計画できていれば最高だと思います。</p> <p>このようなデータが出ているので、確かに運動が好きな子もいるし、嫌いな子もいますが、「学校全体として高めていきましょうよ。」という雰囲気づくり、そのためには中の教員がいなくなっていくしかないと思います。なかなか今、小学校の先生、別に女性が悪いというわけじゃない</p>

	<p>んですけど、なかなか運動と一緒にやろうとかどういう運動を取り入れたらよいかを取り組む感じは少ないかなと思いますので、ぜひ体育の専任を1校に1人は行かせるとか、そういう策も入れていただくとありがたいなと思っております。以上です。</p>
富田会長：	<p>ありがとうございます。</p>
杉山（康）委員：	<p>すみません、便乗していいですか。</p>
富田会長：	<p>はい。</p>
杉山（康）委員：	<p>そのとおりだと思っていて、ぜひお願いしたいと思っています。</p> <p>それに加えて、やっぱり小学校の先生は多忙で、いろんなデータの分析力みたいな、おありの方でもできない環境だと思うんです。</p> <p>実は今ここ何年もほぼボランティアで僕分析しているんですけど、何かやっぱりそういうデータを分析するということを専門家集団みたいなところに依頼できたらいいなと思うし、僕のマンパワーじゃちょっと、かなり30万人のデータを分析するのって相当大変なんですけど、その辺のところも何かちょっと知っておいてもらいたいなと思います。以上です。</p>
富田会長：	<p>軽く愚痴が入りましたね。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>多分、これは体育の授業以外ということなので、中学校の全国平均を上回るというのは、部活動が盛んに行われているし、そこに参加している子供たちがすごく多いということなんだろうと、これは思います。</p> <p>そうすると、小学生にそういう場をいかに提供していくか、つくっていくかということが求められているのかなと。</p> <p>今、中学校の部活が地域部活に落としていくという動き、そこに多分小学生、中学生だけじゃなくて小学生も巻き込んでいながら地域のクラブで子供たちのスポーツを支えるということがより現実的に、具体的に動き始めると、多分この辺にも影響するのではないかなと。</p> <p>一つの形としては、今言ったように体育の専任教員をとというのも大きなまた効果を及ぼすというふうに思いますので、出てきた結果をどうきちっとPDCAを回す意味でも評価をし、次の対策に回すということ、しっかりと回しながら、これは検討しながら進めていかななくてはならないのかなというふうに思いますので、杉山委員のおっしゃった分析ということも十分大事な一つの仕事になっていくのかなというふうに思います。ありがとうございました。</p> <p>先ほど言ったんですが、それでは微修正ということで、また皆さんのお手元に届きましたら、ぜひまた御意見をいただければというふうに思</p>

	<p>います。どうぞよろしくお願いをいたします。</p> <p>それでは、本日の審議を終了いたしまして、進行のほうを事務局のほうにお返しをしたいと思います。ありがとうございました。</p>
事務局：	<p>委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>本日の審議は以上で終了でございます。</p> <p>そのほか、来年度に向けて、スポーツの聖地づくりに関する各関係課の予算や取組について、資料6、資料7としておつけしてございます。</p> <p>また、カラー刷りのチラシ、委員の杉山様から御提供いただきました。今月19、20日と富士市役所の前、公道を使った自転車レースのチラシでございます。こちらを併せまして、時間の都合で今回割愛させていただきますので、こちらは後ほど御確認いただければと思います。</p> <p>先ほど会長からございました、今回の審議会の結果を踏まえまして、計画を修正して、追って送付させていただきますので、御確認ください。県としましては、今回の審議を受けまして、速やかに計画を策定していきたいと思っております。</p> <p>以上で令和3年度第3回静岡県スポーツ推進審議会を閉会いたします。</p> <p>本日は長時間にわたり御審議いただきまして、どうもありがとうございました。</p>